

科目名	グローバルインターンシップ			英文表記	Global Internship		2017/4/28		
科目コード	6022								
教員名:	【機械システム工学コース】富澤淳						作成		
技術職員名:									
対象学科/専攻コース	全コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
				専1・2	選	学修	2単位	実習	集中講義
科目目標	① 海外での研修(企業・語学研修など)を通じて実践的な技術・語学力を身につける。 ② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 ③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。								
総合評価	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% 履修に必要な書類: 受入許可書および日程表(この提出をもって履修許可とする)、日報、派遣先からの評価書、報告書(様式任意)、報告書(学校様式2)、発表会資料、履修願								
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)	達成度目標の評価方法	ルーブリック					
				理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	最低限必要な到達レベル	セルフチェック		
	40%	① 海外での研修(企業・語学研修など)を通じて実践的な技術・語学力を身につける。	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% で評価する	実務経験を通して、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる	実務経験を通して、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる	研修内容を理解し、日報や報告書に記述することができる(指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)			
	30%	② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% で評価する	実務経験を通して、その内容を理解し、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる	実務経験を通して、その内容を理解し、高専で学んだことと働くことを関連付けて考えることができる	研修内容を理解し、自らの役割(立場)について日報や報告書に記述することができる(指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)			
30%	③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% で評価する	実務の内容と意義について理解し、自ら考え、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる、	実務の内容と意義について理解し、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる	実務の内容と意義について理解し、意義に基づいて実務経験をし、その内容を日報や報告書に記述することができる(指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)				
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<専攻科教育目標> (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する				
	○		◎						
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合									
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック		
評価項目		0	0	100	0	100			
基礎的理解	①②③			25		25			
応用力(実践・専門・融合)	①②③			25		25			
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	①②③			25		25			
主体的・継続的学修意欲	①②③			25		25			

授業概要、方針、履修上の注意	<p>【概要】 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。
教科書・教材	教員作成資料、企業作成資料

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時 間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	講義内容説明・ガイダンス	1	インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス		
2	インターンシップ先企業研究	9	企業研究、大学受け入れ先検討	企業・大学の調査	
3	インターンシップ	70	約4週間の企業研修・大学での研究		
4			①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる	研修研究内容の自己研究	
5			②企業における社会的責任を理解できる		
6			③企業活動が国内外の他社との関係性を理解で		
7	成果報告まとめ	10	インターンシップ報告書の作成・報告会資料作成・報告	資料作成・プレゼンテーション	
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期 十	期末試験				
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期 十	期末試験				
	学習時間合計	90	実時間	67.5	
	自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)			標準的所用時間(試行)	
	① 企業内研修・大学研究での課題レポート			各2時間×5回	
	② 課題発表(テーマに沿った課題について調べ、発表資料を作り、発表する。)			各2時間×5回	
				計20時間	
備考欄					
(各科目個別記述) ・ 関連科目:◎インターンシップ(4年)、卒業研究(5年)、特別研究(専攻科1・2年)					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)